

吾妻山の火山活動解説資料

仙台管区気象台
火山監視・情報センター

本日(29日)、福島県警察本部の協力により上空からの観測を実施しました。大穴火口の噴気と周辺の状況に大きな変化はありませんでした。

昨日(28日)08時15分頃に火山性微動が発生しました。火山性微動発生前後に地震活動の活発化はみられませんでした。

大穴火口から概ね500mの範囲では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、大穴火口の風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石、火山ガスに注意してください。

2014年12月12日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを1(平常)から2(火口周辺規制)に引き上げました。その後警報事項に変更はありません。

活動概況

・噴気など表面現象の状況(図2~4)

本日(29日)福島県警察本部の協力により実施した上空からの観測では、前回(14日:陸上自衛隊の協力による)と比較して、噴気孔周辺の新鮮な硫黄昇華物と思われる黄変色域がやや広がっているのが確認されました。このような変色域の拡大や縮小は、ここ数年の上空からの観測及び現地調査時にもしばしば観測されています。

本日の大穴火口の噴気の高さは最大100mで、変化は認められません。

・地震や微動の発生状況(図5、図6)

昨日(28日)08時15分頃に火山性微動が発生しました。継続時間と最大振幅はこれまでに吾妻山でみられた微動の中では平均的なものでした。それ以降、本日(29日)15時までの間、火山性微動は観測されていません。

火山性微動発生前後に地震活動の変化はありませんでしたが、本日は15時までで6回とやや多い状況となっています。地震は2014年12月以降、増減を繰り返しながらも全体としては多い状態で推移しています。震源は大穴火口付近直下のごく浅いところと推定され、これまでと変わりはありません。

・地殻変動の状況(図7)

浄土平観測点に設置している傾斜計¹⁾では、長期的な緩やかな西側(火口方向側)上がりの変動が継続しており、26日から変動がやや大きくなっています。

また、GNSS²⁾連続観測では、2014年9月頃から一切経山南山腹観測点(大穴火口の北約500m)が関係する基線で緩やかな変化がみられており、一切経山付近の膨張を示唆していると考えられます。

気象台では火山活動を注意深く監視しています。今後、更なる活動の活発化がみられる場合には、噴火警報等を発表します。

1) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがあります。

2) GNSS(Global Navigation Satellite Systems)とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>)や、気象庁ホームページ(<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院、東北大学のデータを利用して作成しています。本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ(標高)」を使用しています(承認番号 平26情使、第578号)。



図 1 吾妻山 観測点配置図

小さな白丸 () は気象庁、小さな黒丸 () は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(東) : 東北大学 (東地) : 東北地方整備局

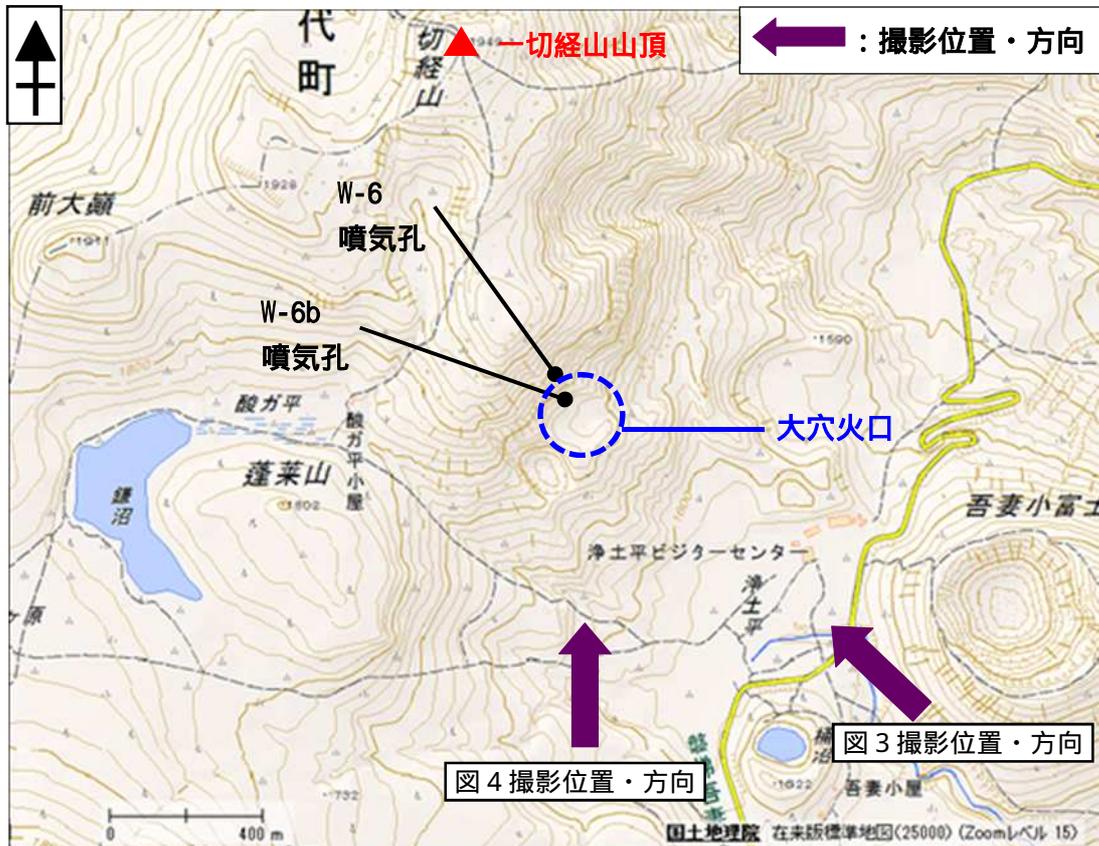


図 2 吾妻山 大穴火口付近の状況と地表面温度分布撮影位置・方向

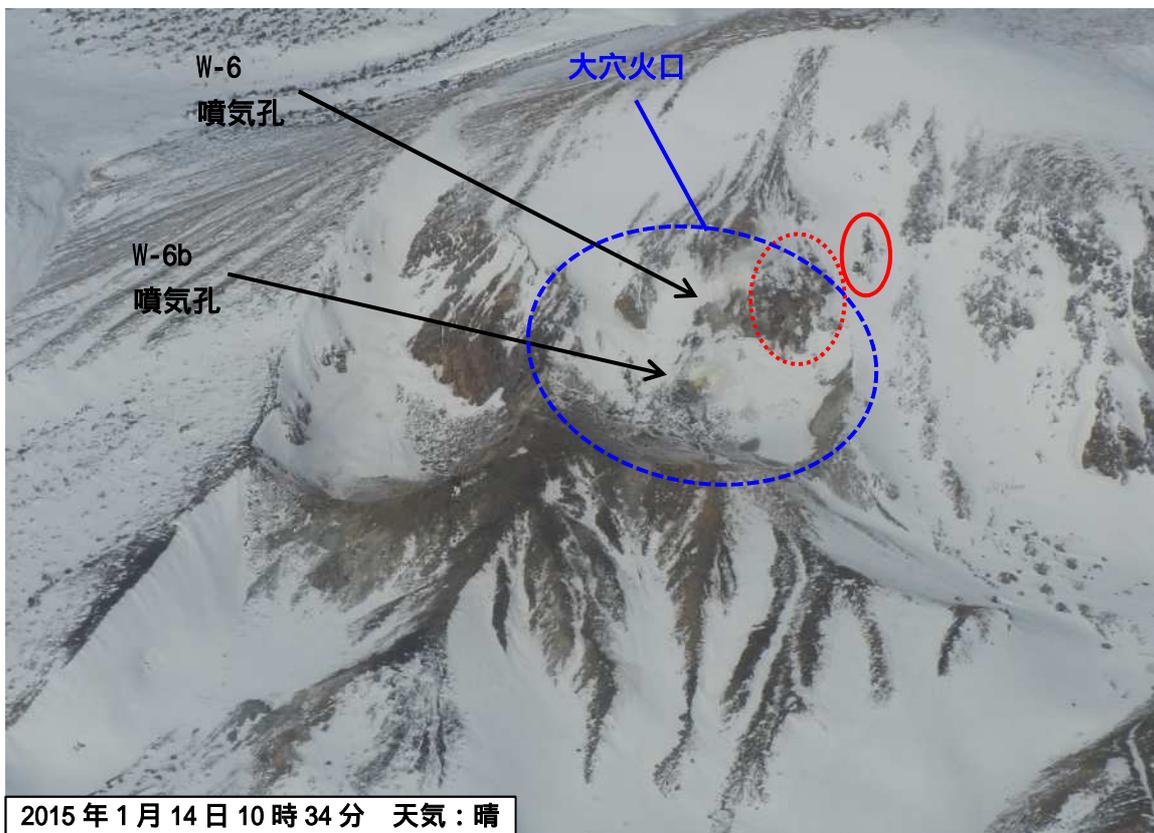
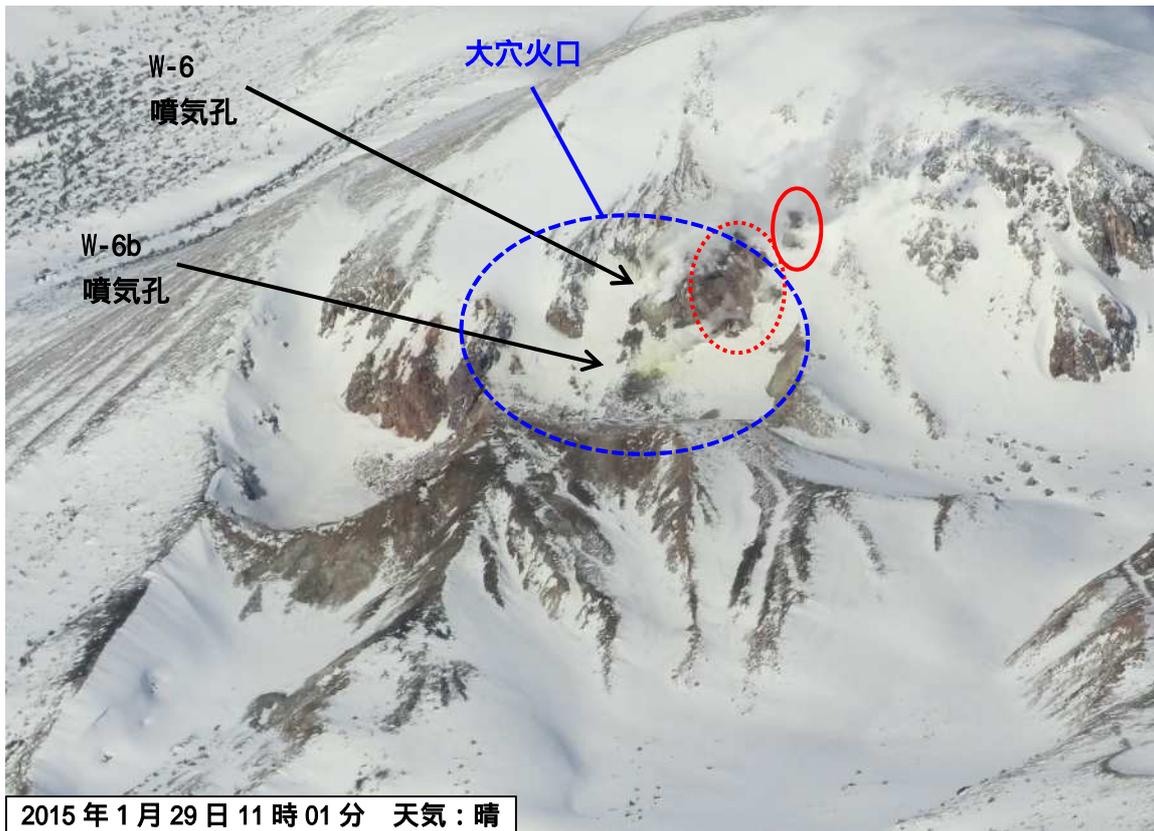


図3 吾妻山 南東方向から撮影した大穴火口周辺の状況
上図：2015 年 1 月 29 日撮影 下図：2015 年 1 月 14 日撮影
・赤破線は 2013 年～2014 年にかけて地熱域が拡大した領域です。
・赤実線は 1 月 14 日の観測で新たに確認された地熱域です。

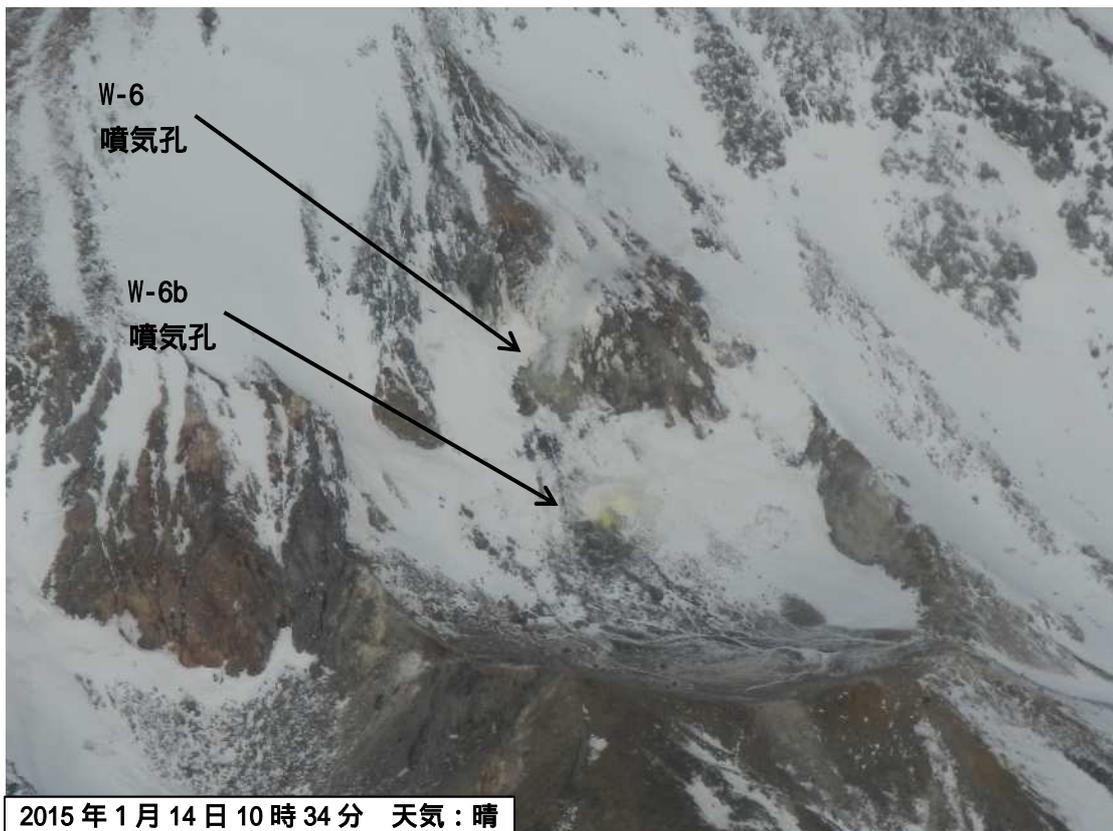
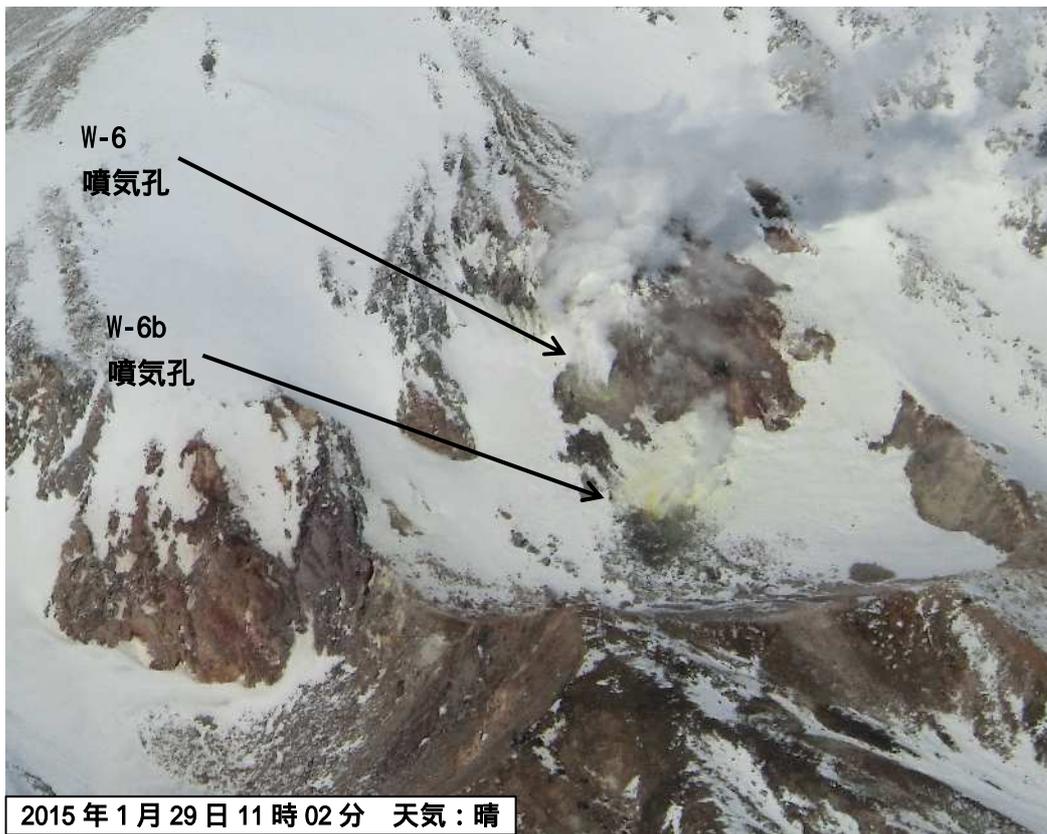


図 4 吾妻山 南方向から撮影した大穴火口の状況

上図：2015 年 1 月 29 日撮影 下図：2015 年 1 月 14 日撮影

- ・ 1 月 14 日と比較して、1 月 29 日では噴気の量がやや多くなっていますが、通常の活動の範囲内です。
- ・ 噴気孔周辺の新鮮な硫黄昇華物と思われる黄変色域がやや広がっています。

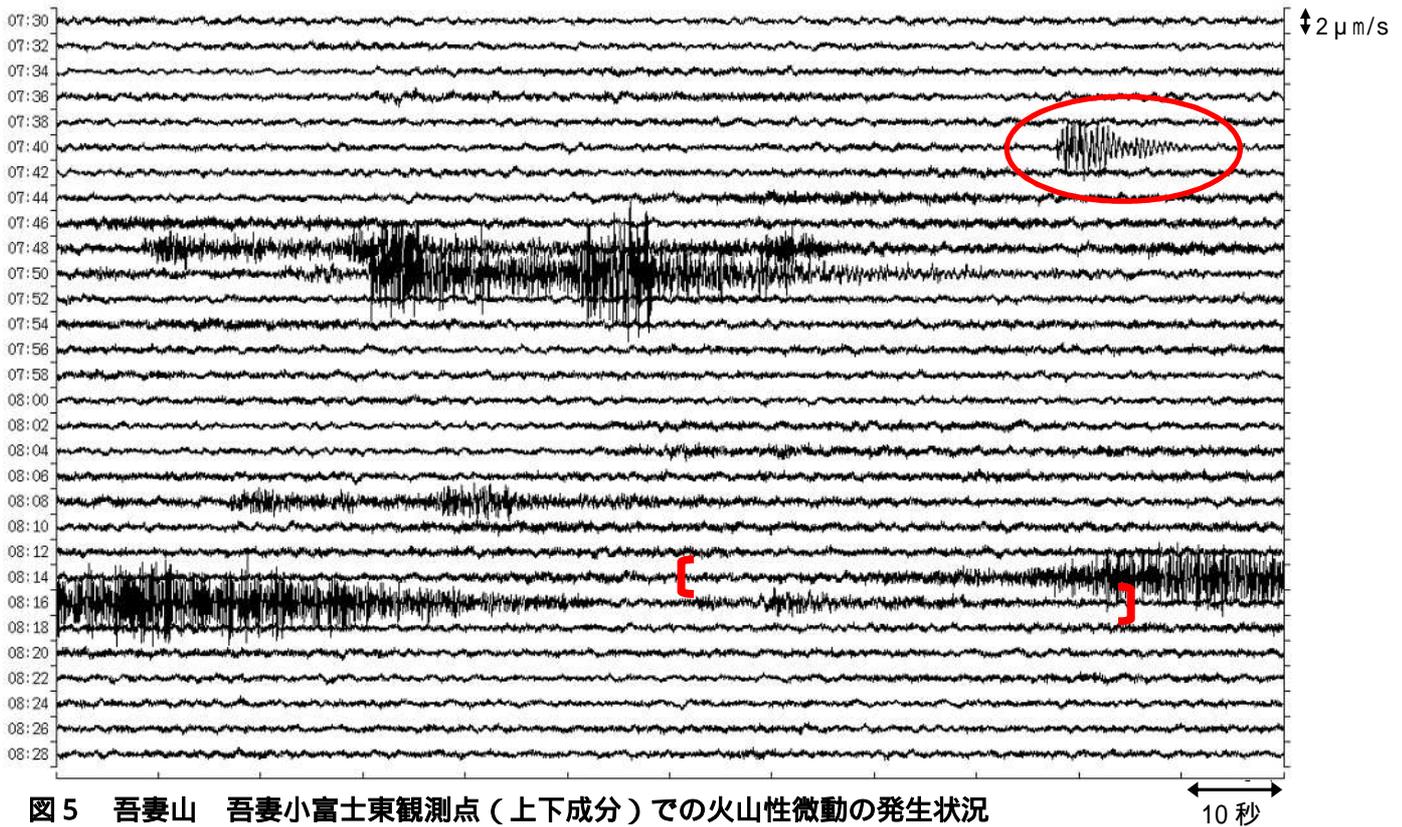


図5 吾妻山 吾妻小富士東観測点（上下成分）での火山性微動の発生状況
(2015年1月28日07時30分~08時30分)

- ・ () 内が火山性微動、 [] は火山性地震。その他の震動記録は吾妻山以外で発生した地震。



図6 吾妻山 火山性地震の日別回数 (2014年1月1日~1月29日15時)

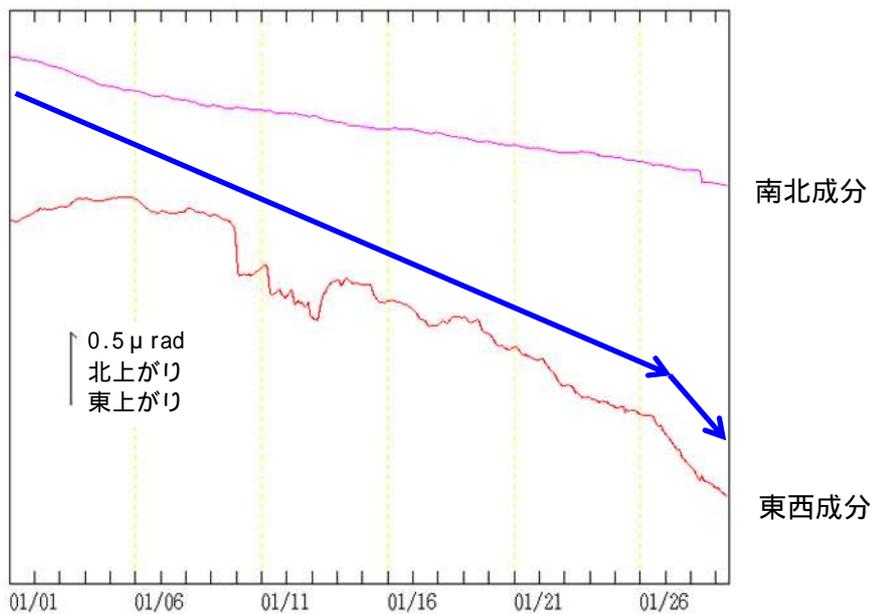


図7 吾妻山 浄土平観測点での傾斜変動 (2015年1月1日~1月29日12時)

- ・ 青矢印は傾斜計の変化傾向（東西成分）を示します。
- ・ 2015年1月26日以降、西側（火口方向側）上がりの変動が大きくなっています。
- ・ 印は、機器に起因する変化です。